

大祖吉見姓 年曆不詳

佐々木氏由緒写

昔右大将頼朝公之時代佐々木二郎綱吉同三郎盛綱同  
四郎高綱トテ天下無双之弓取也然ル二三郎盛綱之末  
絲越後之因加治之庄官領ニテ佐々木安芸守トテ有之  
上杉景勝ト及一戦ニ打負ル安芸守末絲ハ越後因田貝  
ト申所之山伏ニ成ルト云々二郎綱吉ヨリ六代之末絲  
佐々木尾張守長敦トテ越後柴田之城主然ルニ尾張守  
世継無之舎弟因幡守相統ス越後一乱之節天正十年ヨ  
リ越後五十公野道如齋ト共ニ兩城ニ取籠景勝ヘ組セ  
ズ佞テ天正十一年十月十五日ニ景勝出馬**被致**其時之  
先手三千余因幡守ニ**切被立**放生橋ト云フ所マデ敗軍  
之由景勝之旗本マデ因幡守**乘掛大事**ニ及所上条民部  
ト申侍旗本之前備ニ立其時景勝日之丸之旗ヲ取三十  
間ホド先へ推出シ上条手勢ノ侍共ニ下馬サセ**鎧**ヲ取  
リ膝之上ニノセ芝居ニ折鋪備ヲ立ル間因幡守引返シ

候次年八月十八日二景勝出馬被致其時之先手直江山  
城守佐々木因幡守二切被立敗軍ノ所上条義春横合ヲ  
入崩シ佐々木川之向八幡ト云フ処ニテ因幡守ヲ追討  
ス因幡守合戦之度々二景勝之先手ヲ切崩シ猛勇ヲ振  
フ事鬼神ノ如ク五ヶ年取合天正十五年二五十公野柴  
田落城ト云々其時モ因幡守ハ備前兼光三尺三寸之太  
刀ヲ抜キ染月毛之馬ニ乗り精兵八百余騎ニテ景勝之  
先手ヲ切立遂ニ色部修理乃備へ乘込ミ討死スル其時  
因幡守嫡子ヲハ治部義勝トテ十三歳ナリ是ヲ討セテ  
ハ叶間鋪キトテ則越後宮内村ノ八幡宮之神主吉見左  
衛門太夫ニ被下吉見之養子トシテ隱置候所ニ文祿年  
中ニ越後宮内村ト云所ハ幡宮之神主家ニ因幡守一子  
有之由景勝聞出シ宮内村へ打手ヲ被差向其時神主手  
勢ノ社人数百人ヲ以テ戦ト雖暫時ニ打負ケ吉見左衛  
門太夫ハ不叶シテ佐々木治部ヲ連テ加治ノ庄菅谷ト  
云フ所不動之別当山伏ヲ頼テ隱居ル其後柴田城へハ  
加賀因大聖寺ト申所ヨリ溝口伯耆守殿ノ御入部ソレ

ヨリ長久安全トナル加治ノ庄ニ隠レ居リ候吉見左衛  
門大夫ハ菅谷ニテ病死スル佐々木治部計宮内村へ立  
歸へリ吉見之家督ヲ相統スレドモ佐々木ヲ名乗り治  
部大夫義勝ト号シテ十五年程無事有ケルガ二十七八  
歳ノ比ヨリ景勝ヲ一太刀恨マント宮内村ヲ打立テ彼  
夕此夕ト伺候所ニ景勝ハ奥州米沢城ニテ病死被致是  
非ナク治部大夫宮内村へ立歸へリソレヨリ宮内村ハ  
幡宮之神主佐々木氏ト号スル者也

元和元乙卯年 十月吉日

佐々木 治部大夫義勝 祖

同 治部大夫義輝

同 相模守 義忠

二弟 權大夫今西飯島一宮神主

三弟 甚大夫今佐々木村神明神主

四弟 形部大夫今則清神明神主

弟子宮左衛門大夫今切梅若宮神主

弟子民部太夫今中ノ目星宮神主

同 肥後守 家忠

弟 善太夫 今宮内神明神主

弟子 助太夫 今西菘口若宮神主

同 兵庫頭 舍房

同 相模守 吉次

但天正ヨリ正徳五マデ

百四十四年二十ル

同 筑前守 吉光

弟 石見守 今 西菘口石動神主

同 加賀守 源吉本

宝曆九年六月十四日任官

同 兵庫頭 源吉千

安永八年六月二十三日任官

同 加賀守 源吉道

享和元年七月十六日任官

同 相模守 源吉房

文政十一年四月二十六日任官

同 加賀守 源吉唯

嘉永七年正月五日任官

下興野野村氏ヨリ養子ス

同 社掌 源吉重

万延元庚申年三月十日生

明治三十八年九月二十八日歿

兄 端城 裁判所書記トシテ

函館に任官中死去

妹 イト 東京市山崎繩次郎ニ嫁ス

同 社掌 源浩城

明治二十三年三月二十三日生

昭和十六年十月十九日歿

小学校訓導拝命

弟 二郎 松浦村荒川皆川家相続

妹 ミノリ 横浜 山本一二二嫁ス

弟 侃見 東京 分家ス

妹 ミツホ 岡方村長戸呂

菅原克己ニ嫁ス

同 宮司 源浩郎

大正六年十月二十二日生

平成二十年五月三十日歿